

土木学会四国支部「土木紀行」No.35(徳島) 小鳴門橋



写真-1 小鳴門橋

小鳴門橋(写真1)は、徳島県鳴門市の撫養町桑島から土佐泊浦にかけて小鳴門海峡上に架設されている多径間吊橋です。この橋の最大の特徴は主塔が3基の4径間吊橋という珍しい形式であることです。全長441.4m、最大径間160mで、当初「神戸・鳴門ルート」の実現のPRのために観光道路として計画されました。しかし1957年に徳島県が当時の日本道路公団総裁に有料道路の形で架橋を求めたのですが断られ、鳴門市長の努力も虚しく市議会に提案を見送られ、計画に遅れが生じました。その後1958年に海底ボーリングと測量が完了し、それ以後1959年12月に起工し、1961年7月に開通ととんとん拍子で小鳴門橋は完成しました。この橋の完成は、まだ本州四国連絡橋の実現が疑問視されていた当時、徳島県が単独で橋を架けたという、国に対する大きなアピールになりました。またこの橋の完成した後、通行料が取られていましたが、自動車の普及も重なり、小鳴門橋は徳島県内の有料道路で唯一の黒字道路になり、現在無料開放がなされています。

小鳴門橋の架かる小鳴門海峡の中ほどには鍋島という小島があり、そこには基礎を作り高さ30メートルのA型中間橋脚(写真2左)が建てられており、その両端に二つの吊橋が連なっています。また耐久安全性から、ねじり剛性を高めるために床桁として、補剛トラスと同じ高さの横トラスを設けています。またこの床版を支える縦桁には曝露面積を少なくするために楕円状の穴を設ける工夫がなされています。



鍋島の A 型主塔



補剛トラス

写真-2 橋の細部

小鳴門橋より北へ約 1.5km ほど行った海峡上には斜張橋の小鳴門大橋 (写真 3) が架かっています。また近くの鳴門公園内にはとくしま 88 景に選ばれた日本最大の私立美術館である大塚国際美術館があり、モネやミケランジェロなどの作品を見ることができます。その大塚国際美術館の近くには鳴門スカイラインがあり、約 8km の道のりは景色が美しく高所から橋や海・山の景色を眺められるワインディングは良いものです。ぜひ一度鳴門の町を散策してみたいかがでしょうか。



写真-3 小鳴門大橋

参考文献：徳島・橋ものがたり，加賀晃次著

阿波の橋めぐり，坂本好著

写真撮影：著者